

# 令和3年度 宇治市観光振興計画推進委員会

## 会議要点録

日時：令和3年9月7日（火）

午後2時00分～

### < 次第 >

1. 開会
2. 委員の委嘱
3. 委員会の公開について
4. 議事
  - ・後期アクションプランについて
5. その他
  - ・第2期観光振興計画策定スケジュールについて
6. 閉会

### < 出席委員 >

坂上 英彦	嵯峨美術大学 名誉教授
藤原 直樹	追手門学院大学 准教授
森 正美	京都文教大学 副学長
池本 将孝	宇治源氏タウン銘店会 会長
神居 文彰	平等院 住職
佐脇 至	宇治橋通商店街振興組合 理事長
中村 藤吉	公益社団法人 宇治市観光協会 会長
山仲 修矢	宇治商工会議所 会頭
西村 嘉高	京都府山城広域振興局 農林商工部長

事務局：宇治市 産業地域振興部 観光振興課

### < 欠席委員 >

上林 亮一郎 平等院表参道商店会 会長

敬称略

《資料 宇治市観光振興計画推進委員会委員名簿》順

## < 要点録 >

事務局より、資料1の戦略1～3についての説明。

その後各アクションプランについて意見交換。以下、委員ごとの発言要約。

### 【森委員】

アクションプランの総括ということで実施したことを説明してもらったが、平成30年から令和2年までの3ヵ年の総括なのか令和3年の報告なのかがわかりにくかった。

今回は実施の報告なのか、今後の検討についてなのかを教えてほしい。

### （事務局）

今回の説明は昨年度の実施状況の説明である。

今後の方向性について確認をすることが今回の目的。

### （森委員）

今後の方向性というのは令和3年度の方向性という考えでよいか。

### （事務局）

後期アクションプランの残りの期間をふくめた方向性というように考えていただければ。

### （森委員）

説明いただいた中にはスタンブラリーはデジタルになることの報告や今年度中止になったものの説明等があったが、今後の方向性を議題にするのは議事の後半になると考えればよいか。

### （坂上委員長）

私の理解では、来年度までのプランの計画期間内の意見をいただいたのち、最後に次期計画に向けて、長期的な意見をいただければと考えている。

### （森委員）

分かりました。

いろいろな方が取り組まれている内容が報告されているが、来年度はそれで大丈夫という確認がされていると考えてよいか。

(事務局)

基本的には今説明した方向性でいくが、今日参加されている委員に、これ以降に検討されている計画や検討内容を確認できればと思っている。

【坂上委員長】

今後検討している取り組み等があれば各委員より意見をいただきたい。

【池本委員】

コロナで厳しいのはご存じだと思うが、本商店街での取り組みについて報告させていただきたい。

43ページにあるように宇治源氏タウン銘店会お買い物ラリーを実施した。宇治市のコロナ補助金を使用して実施した。本来は年明けすぐの予定であったが、緊急事態宣言が出ていた関係で3月に実施した。

宇治川右岸は寺社仏閣が多いが、平等院と比べるとあまり注目されないことがない。右岸にある6つの社寺の御朱印をデザインしたエコバックをお買い物された方にプレゼントした。

非常に好評で、特に近隣の方が来られることが多く、地域の魅力を再度伝えることができたと考えている。

また、右岸は景観を重視しており、夏場は草が生い茂り、川が見えなくなるため、草木の伐採を市、府、国へ依頼した。

別の委員会のことにはなるが、綺麗にすると昔からある案内サインや漁協の注意看板が目立ってくるため、行政と相談しながら整備をすすめていきたい。

今は京都府からの補助金を活用し、塔の島の公園でベンチを貸し出し、そこでテイクアウトメニューを食べてもらう取り組みを考えている。コロナの状況に対応できるような事業を考えている。

【佐脇委員】

宇治橋通り商店街の現状と今後のことを報告したい。

わんさかフェスタやスマイルサタデー等のイベントの実施は難しいが、10月に崖っぷち弁当の続編として、うまいもの大作戦を京都府の補助金を使用して実施する予定。

また、消費喚起ということで、来月プレミアム商品券を発売する。1万4千円

分のチケットが1万円で購入でき、9月17日から抽選で500セット販売する予定。

商店街加盟店が増えている。大阪屋マーケットも先月振興組合に加盟した。他にも近隣のお店が数店舗、加盟を表明してくださり、私が理事長をして9年になる中で過去最高に増えている。

今年の秋もわんさかフェスタは中止となったが、文教大、宇治市、宇治橋通り商店街が一緒になり、一般の方から募集した宇治の写真で写真展を実施する予定。

響けユーフォニアムのファンを対象に行われた宇治ウインターフェスタではコラボメニューの作成やクリアファイルの配布を行った。観光はリピーターが重要だが、響けユーフォニアムのファンはかなりリピートしてくれた。

観光地に行くのは半年に1回がよいところだが、この時は年間12回リピートしてくれた。社寺、お茶目的の観光客とは違い、新たな観光客と増やせるのではと思った。今後もこのようなイベントを定期的を実施すれば、観光客は増えていくのではと感じた。

#### 【神居委員】

放ち鶉飼の件は面白い要素を持っていると思う。

私たちや関係する人がよいと思うだけでなく、他府県に伝える、もしくは来ていただく起爆とする仕掛けとして貰いたい

佐脇さんが仰っていたアニメーションについても、ブームが終わった時への仕掛けを考えておく必要がある。

#### （坂上委員長）

この計画ではSDGsという言葉が含まれていないので、そのような視点も今回の計画の後半で必要ではないかと感じるような意見をいただいた。

#### 【西村委員】

折角アニメのリピーターもいるので、アクションプランの中でKPIのような数値目標を作成した方がよいと思う。その方が事業達成に向けて進みやすい。

例えば放ち鶉飼も実施する際にアンケートを実施し、満足度の調査や、アニメのリピーターが何万人来ているのか等の数値的な目標を立てた方が議論しやすい。

### 【森委員】

池本さんや佐脇さんから商店街での様々な取り組みを聞かせていただいたが、折角、市をあげてのアクションプランなので、全体としての取り組みをどうするかをもう少し整理した方がよいと思う。

コロナの中、あるところの知恵を使って、それぞれができることを必死にやってきた。それを今共有していただいている。それを受けて、市としてはそれぞれの商店街と組んでどんなことをするのかを確認する必要がある。

数値目標についてはコロナなので、立てては裏切られということになるが、観光の質的な転換が起こっているということを言語化して共有する必要がある。

例えば池本さんがさっき仰っていたように、近隣のお客様にリピーターとして来ていただいて、500枚のエコバッグをすべて配布したということを経験として評価したいということであったが、このような内容は今までの観光振興計画の中で一つの指標として共有されていなかったと思われる。

源氏タウン銘店会さんがそのイベントでうまくいった。ではそのあとどうするか。崖っぷち弁当もうまくいったというが、何をもちょうまくいったのかが客観的には分からない。500枚のエコバッグが配布でき、近所のお客さんが来てくれたことでうまくいったとなっているが、それは500枚で良かったのかという検証ができておらず議論もされていない。このままいくと今年も色々大変で、それぞれ工夫して頑張りましょうで終わってしまってもよいのかと思う。

国の補助金もバラバラいろいろな形で降ってくるので、全体で共有して進むことが難しいのは分かるが、このままでは地域や事業者で差ができてくると思う。このあたりは十分に観光事業者同士で共有されていて、地域とも結びついていっているのか。振興計画は個別の事業を面でとらえ、市として広く情報共有して進めていく役割があると思う。

### (池本委員)

今は市、府、国からいろいろな補助金が出ているが、もしコロナで何かあった時は事業ができなくなる。

少し前までは色々なところに声をかけて行っていたが、今は周りを巻き込んでいくことが難しい状況。

現在は、それぞれが責任が持てる範囲で出来ることを実施している状況であるため、森先生が仰っていた、個別で差が出ていると思われるも仕方がないと思う。

この状況をどのように解決すればいいかの答えはすぐには出ない。なので、今は行った事業の報告しかできない。

( 森委員 )

それを否定しているわけではなく、そのような工夫が集まっているのでそれを共有して、どう前に進めるのかを考えたい。

( 坂上委員長 )

国や府の補助金がたくさん出てきている。

これらの補助金をこの会議でまとめていくことはたいへんな作業になるかと思うが、せっかくの皆さんの情報なので、お互いに理解をし合う程度は必要と思われる。

これをもとに市が総合的戦略を立てることは、補助金の性格上難しいとは思われるが、市の観光課がどれだけ皆さんにうまく情報提供し情報収集するのかということになる。

観光政策にかかわる DX が出来上がると、こういう問題もなくなるのではと思う。

おそらく次の計画では観光のテーマの DX をどう組み立てていくのかというご意見もでてくるのではないかと想定できる。

#### 【事務局】

西村部長よりご意見いただいた KPI の部分について、後期アクションプランにおいては平成 28 年度に観光動向調査を実施した結果から、計画最終年である令和 4 年度に向けての目標値を設定している。

その目標については森先生のご意見にもあったとおり、質的なところ、入込客数という人数的なことではなくて、観光客の宇治市への満足度といった内容の目標設定をしている。

本来であれば今年度から来年度にかけて次の動向調査を実施し、この 5 年間の取り組みの結果がどう反映されているかを確認すべきところであるが、コロナの影響もありインバウンドの観光客を含めた観光客の方が来ることができない状況もあり、動向調査を行うことが難しい。

動向調査は次年度に実施したうえで、その結果については委員会で共有したいと考えている。

事務局より、資料1の戦略4～6についての説明。

その後各アクションプランについて意見交換。以下、委員ごとの発言要約。

【藤原委員】

短期的な面と長期的な面の2つの点から問題の提起をしたいと思う。

まずこの1年の取り組みとしては、宇治市様は非常に頑張っておられると認識している。吹奏楽アニメの取り組み、サウンドフェスタなど、このコロナで先行きが見えない中で、その場でのベストな取り組みをされたのではないかと認識している。

この1年で北海道のニセコや和歌山の白浜、軽井沢など、いろいろな自治体を訪問して聞く中で思うのは、今は99%外国人旅行客がいない中、これから少なくとも1年くらいは国内向け、国内需要を包括していく必要がある。

ワーケーションやブレジャーという視点がここ最近出てきているが、今日の報告にはワーケーション、ブレジャー、テレワーク等による長期滞在型の観光客の誘致が挙げられていなかったもので、そのあたりのことについてのお考えを聞きたい。

また、北海道等の自治体に聞いていると、BtoBで研修旅行、学校の修学旅行の誘致について重視しているとのことで、宇治市についてはこの点についてどう考えているかを聞きたい。

短期的な国内のことについてはこの2点を聞きたい。

長期的な視点についてはインバウンドや観光の質の展開の面で考え、方向性の1つとしてあるのはラグジュアリー系。ボリュームはないが1泊10万円などの高い宿泊費を払ってもらえる観光客をターゲットにするというものがある。

京都市でも高級ホテルが出来ているが、宇治市においても高級ホテルを誘致する等でプレミアム層に対応していくことが長期的には考えられる。

今回も4ページにあるお茶の体験メニューの料金改定について、料金が倍になっている。こういった形で、よりプレミアムな体験に対してお金を払ってもらうようなプログラムを作り、ラグジュアリー化を行うことが大事だと思う。

フィルムコミッションについての話があったが、佐賀県ではフィリピンやタイのドラマの撮影場所の誘致をしている。

有名な事例として、鹿島の祐徳稲荷神社ではタイ人観光客が2015年は300人ほどであったが、フィルムコミッションでタイの映画を誘致した結果、3年後には5000人ほどのタイ人観光客が訪れるようになった。

結果として、祐徳稲荷神社は社などの建物の改修工事を行うとともに、館内やおみくじを多言語対応するような展開をされた。神社前の商店街も着物の着付

け体験で写真撮影等を行うようになった。

タイ、フィリピン、ベトナムなど、アジアのドラマや映画の撮影を誘致することで、2～3年先に向けての種をまいておくと、コロナがおさまった後にその国の観光客を迎え入れることができると考える。

国内についてはワーケーション、修学旅行あるいは研修旅行。

長期的にはラグジュアリー化とフィルムコミッションを活用したインバウンド展開といった4点についての意見を聞きたい。

#### （事務局）

1点目のワーケーションの取り組みについて、今年度、京都府の交付金を活用し、子育てにやさしいまちプロジェクトということで、いくつか施策を展開している。

観光部門ではワーケーションでエントリーしている。

入り口が子育てにやさしいまちということで、長期的な目標としては観光を通して宇治市の魅力を発信し、将来の移住定住につなげることとなるが、まずは関係人口、交流人口を増やすということで、取り組みの1つ目は受入環境の整備ということで、宿泊施設やコワーキングスペースの整備に対して補助を出している。

現在は宿泊施設で1件、コワーキングスペースで1件においてこれから整備を進める。

もう1つはソフト事業で、現状ワーケーションは沖縄等のリゾート地が選ばれることが多いが、宇治市においても中宇治を中心とした観光体験や子どもや親子がそろって学びを体験するようなプログラムを入れ、モニターツアーという形で観光協会とも協力し、ツアーを造成している。

コロナの状況もあるので、11月頃にスタート出来ればと考えているが、まずはツアーを造成し、宇治でもワーケーションを行っていることを広報することで、今後、旅行事業者の市場で選んでもらえるような取り組みを今年度、また次年度も引き続き取り組んでいきたいと考えている。

2点目の教育旅行について、今年度お茶と宇治のまち歴史公園が8月に開園した。

教育旅行でも十二分に使ってもらえる施設であり、茶づなという施設ではミュージアムもあり、いろいろな体験をしていただける場所となっている。先日、京都府観光連盟の事業で旅行事業者の教育旅行担当者を招いての宇治のツアーを実施した。

このように新しい施設を含め、教育旅行で選んでいただけるよう、引き続き

取り組みを進めていきたい。

3点目の質の展開において、ラグジュアリー層に訴えかけるようなホテルの誘致といったご提案をいただいているが、ホテル誘致にはそれなりの広さの土地や立地を考えたうえでの実施になると思われる。多くの規制等も発生してくる中で、現時点でホテルの誘致は進めていない。ただ、観光入込客数を増やすというよりは観光消費額、単価を上げていくということは必要だと認識している。

4点目のフィルムコミッションの件について、各所に種をまいておくことは必要だと考えているので、国内に限らず、様々な方法で、来るべき時に海外から来ていただけるような取り組みを行う検討をしていく。

(坂上委員長)

宇治は宿泊容量が白浜のように多くの客室があるわけではないので、和歌山県のように全県あげてワーケーションに取り組むのは難しい面もあると思うが、生活視点からのアプローチをされている。

【神居委員】

発信してくれる人を呼ぶ必要があると思う。

宇治の空き家を使用してのアートオブレジデンスなどは行政でないとできないと思う。

半年に2組、300万円の予算をつけ、アーティストを呼び、宇治の環境で作品を作ってもらうことを毎年続けていけば非常に大きな発信になっていくと思う。

ワーケーションやブレッジャーというような体験でなくて、宇治がお金を出して発信してくれる人を呼ぶといったアートオブレジデンスを考えていただきたいと考えている。

歴史公園ができたので、その一角でもよい、空き家でも考えている場所もある。やる気と予算だと思う。

また、後半部分で次回までにシミュレーションをしていただきたい件が1点ある。公共交通機関のなかで、歴史公園への交通動線を含めたシミュレーションを一度出してほしい。バスをどこに停めて、どのように歩かせて、周辺も含めて周遊させて、どの程度の渋滞緩和ができるのかなどを含めてシミュレーションを出してほしい。

### 【佐脇委員】

先日歴史公園の内覧会に行った。その中に宇治茶の歴史を知る博物館の機能があり、観光客をターゲットに作っていると理解しているが、今コロナ禍で観光客に期待ができない状況なので、まず宇治市民の宇治茶をあまり知らない方に足を運んでもらうのが一つのポイントだと思う。

宇治市民が行きやすい仕掛けを作り、宇治市民が発信者になると、最終的に観光客の誘致につながると思う。

先程、発信者の話があったが、市民がすべて発信者になれば宇治茶の振興にもつながると思う。

今は民間が運営しているため、難しい面もあると思うが、宇治市民は安く入れるなど、優遇されるものがあればよいと感じた。

### 【森委員】

藤原先生の意見のとおり、どの観光地も自分のところには何が合っているのか等、相当分析していかないと次に繋がらないと感じた。

質の転換であったり高付加価値化をどこで狙っていくかが宇治にとって必要。ワーケーションについて、宿泊事業者がそれを想定して動いているのかが全く見えない。

神居住職が仰っていた、まち全体のまちづくりに力点を置いた方がまちのリズムに合っていると思う。

そのあたりを、どう魅力発信していくのかをもう少し幅広にとらえてられるようになるとういとお考える。そのあたりの仕組み、コロナ以降の宇治のまちづくりを本当にどうするかをしっかりと考えないといけない。今やっていることがそれにつながっていることなのか、とりあえずのしのぎなのかは労力が全然違うと思う。

ラグジュアリー層で観光消費額を上げるといったときに、宇治市の場合で難しいのは京都市が横にあるので、宇治市でなければいけないということを、どれだけ本気で投資していく覚悟があるのか。事業者にもその気持ちがあるのか。アマンが宇治に来たいとなった時に、アマンに提供できる場所があるのかが不安。そこが宇治の狙いなのか、ターゲットは違うところなのか。藤原先生が提案してくれた大きなトレンドの中で、全然議論されていない。

また、国内にいる外国人の居住者の方々を発信者に育てるしくみが重要。

以前、国際交流クラブの皆さんと協力して、宇治市に住んでいる外国人の方や近隣の市町村にいる留学生、労働者の方々に、宇治のお茶の体験をしていただき、

母国語で Facebook に書いてもらうという取り組みをしたことがある。参加者がいろいろな言語で発信してくれた。

来れない場合は、情報の継続性といった面で、今こそこういう取り組みをするべきだと思う。多文化共生の視点が足りないので、地域にいる外国籍で外の目線を持っている人たちが、地域の魅力を感じ、発信してくれれば心強く持続性があると考える。

情報発信の面でライターにお金払って書いてもらったというが、ちょっと違うと思う。

#### 【中村委員】

意見が2点あり、1点は舟運の活用とあるが、1か月以上前に大阪府知事が万博の開催に向けて大阪から京都の舟運の活用をしたいとの記事が載っていた。

現在の最終の着地については伏見までということとなっているので、ぜひ宇治市で働きかけを行っていただき、浅いところは掘削するという意見もあるので、宇治までつなげていただきたい。

2点目は天ヶ瀬ダムから下流について議論されているが、上流のダム湖の活用について今後の長期の視点に立って考えていただきたい。

そういう点が周遊というところで、宇治市の滞在時間が長くなり、商店街にお客さんが来られ、1日宇治のなかでゆっくり遊んでいただけると思う。

今後はそういう視点でも考えていただきたい。

#### 【山仲委員】

このコロナ禍の中で緊急事態宣言が延長される可能性がある中、適切な時に適切な情報を発信することが非常に大切と思う。

あまりやりすぎて息切れしてしまうのももったいない、またこれから何か知りたいと思ったときに準備をするのでは遅い。

いかに適切に発信していくか、いい時期にいい情報を発信していくことを考えていかないと、ここで話したことがしばらくして無くなってしまってもったいない。ぜひ実効性があるものとなるようにと考えている。

#### 【神居委員】

伏見から南部と合わせて新名神の城陽から宇治までのことは必ず頭の中に入

れておく必要がある。

アウトレットという大きなものが出来ていくとなると、宇治の役割や観光消費も含めてどうするのか、アウトレットに来た人が観光で宇治に来るとき、まちはどうなるのかを考えていく必要がある。

伏見からのこと、南部からのことを含めて、大きなプランとして考えていく必要がある。

(西村委員)

今のご意見の中で、京都府の総合計画の中で南部地域については新名神の開通を見据えて、地域に来られる方々や物流、給油地も含めてどのようにしていくかを考えている。

アウトレットであれば何十万人の方が来られるので、宇治だけでなく山城地域で、その方々をどのように滞在していただくか、周遊していただくかを各市町村の方々と考えていきたい。

計画上は皆さんの意見を聞きながら山城地域を振興していきたいと考えているので、また皆さまからご意見いただければと思っている。

ワーケーションの話について、お茶の京都 DMO は過去 5 年間は観光地域づくりという形で取り組んでいたが、次の 5 年間は持続可能な地域づくりという形で地域づくり支援法人という形で衣替えしさらに進化していく。

滞在型の観光をしていく、それから移住定住につなげていくなど、関係人口の創出も含めて取り組んでいく。

宇治市の観光振興計画も含め、様々な意見を伺いながら、府の方としても連携していきたいと考えている。

【坂上委員長】

戦略 4 から 6 については一通り意見をいただいた。次はこれからの観光振興計画について、長期的な意見をいただきたい。

今までの委員の方々の意見を私なりにまとめると、来年までのこの計画期間内は国内観光、マイクロツーリズム、近隣の観光客で今まで取り込めていなかった方を、宇治市の観光にどうコミットしていくのかということが重要となってくる。コロナ対応で近隣観光を中心に来年度までこの仕上げを行っていく時期ではないかと感じた。

長期的な点で今後 5 年間どうしていくかというテーマに移っていこうかと思う。長期的な意見についてはすでにいくつかご意見をいただいているが、次の計画や将来についての意見があればお願いしたい。

**【中村委員】**

令和6年3月にオープン予定の任天堂資料館というのが小倉にあり、これが近隣の観光客を呼び込む起爆剤になると考えられる。

それに対しての行政としての関わり、それから宇治市として今までと違う小倉という地域を含めた、面で観光客をどう引き入れるかという、宇治市を面でとらえる施策を考えていただきたい。

(脇坂部長)

先日の小倉のまちづくり委員会の中で任天堂資料館が設置されるという話は聞いている。

ただ、ホームページに掲載されている以上の、さらに詳細な情報は入手していない状況である。引き続き新しい情報があれば、観光の部門で期待も高いところであるので、情報を共有していきたいと考えている。新たな情報は今のところないというのが現状である。

**【坂上委員長】**

文化庁が京都府に移転される。文化財を活用して現代アート等の新たな活動を新しく支援していくというメニューを用意していると思う。

今日ご意見いただいたように、アーティストの方が文化財でどう活躍されていくのかというようなことも宇治市の環境に合った活動になるのではないかと考えるので、次期にはアートを歴史文化の環境の中で思う存分活躍をしていただくような、そういう考えもよいのではと思った。

また、歴史公園や任天堂資料館、新名神など、観光にとっては追い風のある環境にあるかと思う。全国の観光地でもこのような大きな波が来ているところはそんなに多くない。コロナによる影響ばかりで、大変な状況が続き、新しいネタがないというのが多くの自治体、地域であると思う。

今後、宇治の資源をうまく活用してくのかというのが重要なテーマになると感じる。

**【森委員】**

2025年の万博があり、オリンピック・パラリンピックが終わったばかりで期待しすぎるとよくないが、万博のテーマ自体が次のジェネレーションの環境

や健康というものがテーマとなっているのであれば、宇治の持っている地域資源の特徴と親和性が高いと思う。

2025年に向けて柱となるものを、テーマ性をもって考えた方がよいと思う。

周辺環境的に便利になるものが出来るなど、施設ベースで観光を考えてしまう癖があるが、それだけではなくテーマベースで考えるように組みなおしていかないといけない。

新しい施設が増えるので、皆が期待するが、担い手がそのテーマに応じて、この小さなまちの中で一気に増えるわけではない。

小さなまちづくりの中で小さなサイクルが回っていただけになり、あまり起爆力が出ない。それを一度テーマに整理してみることで、例えば外部のアートの人や外部のけんこうの人など、そういうところとウイングを伸ばしながら組み合わせ、全然違う文脈での発信になると思う。

前のアクションプランを作る際にお茶というテーマが入っていなかったものを、宇治茶をメインに出してくるというのが目標であったので、それは一定できた。お茶を出していくためにはどうすればいいかで細かいアクションプランを作った。でも次を考えていくときにそこまで細かく作り込むのか、変化に耐えるように観光の柱を作っていくのかによって、作り方も変わってくると思う。

2025年は大きなテーマとなって、皆が考えられるきっかけになるような気がする。

#### 【坂上委員長】

2025年大阪万博が大阪湾の陸の孤島だけで開催されるのではなく、そこへ来た人は関西一円に出かけていく可能性は非常に高い。万博会場だけに行つて、そのまま帰る人はほとんどいないのではないかとされている。

関西全体で、例えばサブ会場で宇治ではこんなことをやるといったような動きを広域連合では全体としてまとめていこうという動きがあるので、宇治ではこんなことをやりたいというのがあってもよいと思う。

次期計画は戦略的な部分と、安心安全や交通インフラやサインやトイレの整備といった、自治体の公共事業としてしっかりと支えていかないといけないベースの部分と、二つを同時並行してやっていく必要があると、皆さんの意見から感じ取った。

特にターゲットと発信は全く分けて考えていかないといけない。

アニメを楽しむいわゆるゼット世代といわれる人たちは、Facebook の利用は0.何パーセントである。ほとんどYouTube や動画で、テレビも見ない、新聞も

見ない、そういった人たちを集めようとしたら違うやり方をしないといけない。

そういう意味でターゲット、誰を呼びたいか、あるいは宇治にはどういう人がよいのか、というのと、どういう戦略的な情報発信をするのかを掛け算で考えていかなければならないと感じる。

#### 【池本委員】

一事業者として何ができるかを考えると、それぞれの仕事の質を高めておくことしかできないと考えている。

昨年 Goto トラベルが始まった時は予想以上の観光客が来てくれた。

そのときのように国内の観光客がたくさん来てくれた時に、いい思いをしてもらい帰ってもらわないと、小倉に任天堂の資料館ができたリアウトレットが出来た時に、中宇治へ足をのばしてくれる方がいなくなると思う。

商店街の事業者としては、それぞれの質を高めることや、商店街の魅力を発信し続けるということは引き続きしないといけない。また、そのサポートを行政の方にさせていただきたいと考えている。

あと、インバウンドがコロナ禍が無くなったからといって、これまで来ていた主に中国人観光客の方がそのまま宇治や京都や日本に来るのかはわからない。

そういった部分では森先生が仰っていた、日本に住むいろいろな国籍の方が宇治の良さを発信してもらい、今までとは違う国の方に来ていただくように種を撒いておくのは良いと思う。

ただし、ムスリムの方になると礼拝や食事の部分で気になる部分はあるが、中国人観光客に頼っていた部分があるので、リスク分散があってもよいのではと思う。

#### 【藤原委員】

森先生や池本さまのお話であったように、地域に住む外国人の方が外国人の視点から、その地域の良さを発見して、それを SNS で地元の国や出身国に伝えることで、人がその地域にやってきて、場合によっては住むということは、北海道のニセコや和歌山の田辺や大分県の別府など、いろいろなところで行われていて、すごく大事なことだと思う。

例えばニセコにスキーをしに来て、雪の魅力を感じて、それを情報発信していく中で、どんどんオーストラリアのスキーヤーがきている場合もある。

宇治の中で国際交流員であったり、AETの方で一時的に来られる若手の外国人の方に観光に関わっていただき、情報発信していくことが重要なのかと思う。

【池本委員】

ここで発言することではないかもしれないが、藤原先生に聞きたいことがある。

ニセコは外資がたくさん入ってきて、店舗を買ったりすることがあると思うが、たくさんの外資が参入し、周りが外国人ばかりになることになると、地域のバランスについてはどのようにまちづくりを考えているのかを教えてほしい。

(藤原委員)

ニセコは2011年ころからオーストラリアのスキーヤーがどんどん増えてきて、1つのゲレンデがオーストラリア人ばかりになる状況になっていて、1泊14万円くらいのパークハイアットやヒルトンといったホテルに家族4人で2週間くらい泊まるような観光が増えてきた。

その次に中国系オーストラリア人が訪れるようになり、そういう観光客を目的にして中国資本あるいはオーストラリア資本がニセコにマンションやコンドミニアムを建設している。

倶知安町やニセコエリアは15,000人程度のまちであるが、地価の上昇率が日本1位になるということが起こったのが2018年くらいである。

コンビニでは外国の食品が売られていたり、土地の値段が非常に高くなっている。

あと冬季の渋滞があり、ラーメン屋のアルバイトの時給が1,500円となるなど、人が足りない状況。地元の方はスキーのインストラクターをすれば時給3,000円貰えるので、地元の高校生や大学生がこぞってインストラクターをし、冬だけでそれなりに稼げるという状況になってきた。

もともとその地域に土地をもっていた人たちに聞いてみると、地価がかなり上昇したので売ってしまい、札幌等に引っ越しする方が多いようである。外国人と日本人での生活習慣の違いはあるが、ここ3年ほど毎年定期的に訪問しているが、そこまでシリアスな状況ではなく、揉めたなどはあまりないと聞いている。

それは季節労働的な部分があり、夏に人があまりいないという特色があるからなのかもしれないが、私の認識は以上です。

(池本委員)

何事もバランスが大切だと思うので、すぐにはそうはならないと思うが、そのような意識も持っておかないといけないと思ったので質問させていただきました。ありがとうございます。

事務局より、資料3「第2期観光振興計画策定スケジュールについて」の説明。以下、委員ごとの発言要約。

【池本委員】

興聖寺というお寺が最近かなり観光に力をいれているので、私が言うことではないとは思いますが、策定委員会の時にお声かけいただき、単独で事業を行うより一緒に議論した方がよいと思うので参加の候補としてあげていただきたいと思います。

【森委員】

前回の計画策定に関わらせていただいたが、時代も変わっていくので、どういうメンバー構成で次の時代の宇治の観光を考えていくかは今後の検討であると思う。

池本さんのお話一つとっても、興聖寺さんも変わってきているということもあるので、前は観光協会の会員さんや関係者、鉄道事業者さんという感じであったが、広域連携的なところで、特に万博をにらんでいくのであれば、京都府さんとの連携で大阪府と連携していくようなブリッジが無いと、宇治市単体では何ができるかといったときに難しい問題もあるので、メンバーについてはご検討いただきたいと思います。

【坂上委員長】

この会に関わらず、次期計画等について事務局の方にご連絡いただければありがたい。

2021年と2022年は国内観光に終始するというのが関係者の見通しで、2023年2024年には国際観光がもう一度復帰していくので、世界的にその準備をしているという話がよく聞こえてくる。

関西空港の戦略も来年まで国内、再来年からインバウンド、国際観光を積極的に取り組む準備のため、いろいろな方々と細やかなネットワークづくりをしている。

新しい計画の時には戦略的な視点というものをしっかりと見据えておく必要があると感じた。

2025の万博の時には京阪さんもダイレクトに会場に入っていく可能性も高いと思うので、立地的にも非常にいい場所になるかと感じている。

2025年を含めて、アフター万博の視点も入れて、次期計画をよりうまくい

くようにしていく必要があると感じている。

本日は委員の皆さま、お忙しい中誠にありがとうございました。以上をもちまして宇治市観光振興計画推進委員会を閉会させていただきます。